

教材教具名 『配る』～袋詰め～

教科(自立活動)

教材教具写真



(1)



(2)



(3)

教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- 1 ねらい 「配る」活動になれる。 手指の巧み性を高める。  
「環境の把握」(4) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。  
「身体の動き」(5) 作業の円滑な遂行に関する事。  
「コミュニケーション」(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。
- 2 発達段階 操作することを通して、数や量を認識する時期
- 3 使い方 (1) ・同じ色のチップをマッチングさせて「配る」  
・見本を「ピンク 2」などのように文字で表示。  
(2) 数字カードを数階段の下の数字とマッチングさせ、ビーズを並べ、袋に入れる。  
(3) 10マスシートを補助具として使用。マッチ棒を10本ずつ袋に入れる。  
マッチ棒を1マスに1本ずつ対応させていくことを通して、手指の巧み性を高める。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)

数学科の学習内容と関連付けて取り組むことで、指導の継続が可能である。  
また、いろいろな物(チップ・ビーズ・マッチ棒など)を「配る」ことで、学習内容を繰り返し取り組むことができる。そのことで、学習意欲・自信につながり、安定して気持ちを集中して考える態度を身に付けることにも結び付いてきている。  
更に、活動が終了したら、「できました。」と報告するように指導したことで、対人関係の形成の基礎に関する力 状況に応じたコミュニケーションに関する力 などのねらいについても、取り組むことができた。